第３３号　八女地区障害者基幹相談支援センター　　平成 27 年 10 月 1 日

リーベル通信

発行責任者：NPO 法人八女地区障害者相談支援センターリーベル
住所：八女市本町 17-2　電話：0943-22-2610　Fax：22-2664
Email　liber-yame@marble.ocn.ne.jp　URL　http://liber-yame.net

『 ひとりひとりの個性が大輪のひまわりの花を咲かせました!! 』

～ 8 枚が1枚に～

平成 27 年 8 月 9 日（日）おりなす八女において、第 3 回グループホームのつどいを開催しました。3 回目となる今回は、グループホーム間の交流をもっと深めようと、ごっちゃ混ぜにグループ編成し、交流しながら楽しく創作活動を行うという企画となりました。当日は猛暑の中を自転車で駆け付けた方や 2 時間も前から来られた方もおられ、利用者 43 名、スタッフ 22 名で計 65 名の参加がありました。司会は「ほうれん荘」の若杉さんとアシスタントが「おおぞら」の中嶋さん。まるでお笑いコンビのような絶妙なトークで進行されました。

今回の創作は夏らしいひまわりの貼り絵で下絵を 8 等分し、各グループで話し合いながらいろんな物を貼り付けて完成させ、最後に 8 枚のピースを合わせて出来上がりとなります。創作中もお二人のトークは絶好調で、グループへの突撃インタビューもあり、利用者からは目が合うとマイクを向けられると恐れられていました。貼り絵の方は、茎にトイレットペーパーの芯を使い立体感を出したり、ひまわりの真ん中に本物のひまわりの種を貼り付けたり、ザルをかぶせたり、なかには下絵にはない渡り鳥や雲や雷、ハートなど自由に発想するグループもありました。完成後はグループごとに工夫したポイントをプレゼンテーションし、最後はステージの上で絵を一枚ずつ合わせることになりました。最後のピースが合わさると、会場は最高の盛り上がりとなり、完成した作品の前で記念撮影、そして最後は「お疲れさま」のかき氷を頂きました。

アンケートでは「よかった」「また参加したい」との声が圧倒的でした。他のグループホーム利用者と交流しながら一つのことを成し遂げるスタイルが、今後の「つどい」の方向性のベースになると思いました。なお、作品の絵はおりなす八女のロビーに掲示されています。

司会の中嶋さん（左），若杉さん（右）

自立支援協議会 分科会活動報告

生活

事例提供の城山学園井手氏

7月16日に第31回生活支援分科会を開催しました。今年度は、利用者の加齢に伴う事例検討の計画をしており、今回は城山学園から事例提供を頂き、グループ討議を行いました。テーマとしては介護保険への移行と、現状の中での対応と二つに絞られました。介護保険については、原則、障害者施設入所中の介護保険申請は出来ないが、例外的に申請が出来ることを確認しました。又、障害福祉サービスと介護保険の違いなど意見交換し、障害の方が柔軟であり、より人間らしいと意見が出ました。施設としては、慣れ親しんだ施設で長く生活をして頂きたい思いが根底にあり、日中活動を工夫したりするが、一方では年々介護負担も大きくなり、施設のマンパワーを超えて事故の心配も出ている、そこをどう折り合いを付けて行くのか・・・。施設として、許容量を知ることも大切との辛口の意見も出ました。最後に、利用者の急変に備えての確認事項シートの紹介もいただき、有意義な時間になりました。当事者の想いを尊重し、一緒にこれからの生活を考えて行きたいと思います。

生活・教育 保護者の想い・・・

「地域にはぐくまれて、貴喜（よしき）らしく暮らしています」

今回、初めて、生活支援分科会と教育分科会の合同で、分科会を開催しました。教育分科会では、例年当事者の思いを聞く機会を設けてきましたが、生活支援分科会でも、是非そのような機会がほしいとの意見もあり、初の試みでした。6月23日の分科会講師は、現在陽だまり工房（就労継続支援B型）で仕事をし、陽だまりの里のグループホームで生活をしている、井上貴喜さんのお母様（井上洋子さん）にお願いをしました。貴喜さんは、地域の小学校、中学校の特別支援学級に通い、憧れのお兄ちゃんと一緒にお父様に連れられ、剣道を続けてきました。地元の友達と共に学び、共に育ってきた貴喜さん。その後、筑後特別支援学校の高等部を卒業され、現在に至ります。お母様のお話しからは、貴喜さんが生まれてからの様々な戸惑いや葛藤、それでも家族みなさんの愛情に支えられ、地域の中で伸び伸びと大きくなった貴喜さんの成長の喜びが、ひしひしと伝わってきました。いつも元気な貴喜さん。もし、パン販売で元気に挨拶をしている若い男性を見かけたら、きっと貴喜さんです！！

中学時代の先生も参加して下さいました！
左：井上洋子さん（講師）
右：二田教諭（現、矢部中学校勤務）

(感想：一部抜粋)「子どもの自立を目指して」と言いながら、目の前の指導に追われている中、先（卒業後）の進路や就職にまでしっかり目を向ける必要性を痛感しました。[小学校特別支援教育コーディネーター]

就園～学校～就職。社会の中で生きていける今があるのは、きっと本人だけでなく、保護者（家族）の方の支えが根本にあるからだと思います。お母様の貴喜さんに対する愛情いっぱいの話、ありがとうございました。

[児童発達、放課後等デイ事業所職員]

教育

第5回 リーベルネットワーク研修会開催！

今年度も、教育分科会では7月28日に、八女市教育委員会と共催で八女市内の小・中学校の特別支援学級担任の先生や特別支援教育コーディネーターの先生と一緒に研修会を開催しました。講師は、柳河特別支援学校　後藤宏先生です。「一人一人が大切にされる共生社会の形成を目指して」というテーマで、講演とグループワークをしていただきました。「障害って何？」と子どもに聞かれたら、皆さんは何と答えますか？日常的に障がいのある人たちとふれあっている先生や福祉現場の職員の方たちも、いざそう聞かれて、きちんと説明できるでしょうか？自分自身が「障害とは・・」をどんな風に受け止めているのか、自身の意識や価値観を振り返る機会となりました。また、事例を通して、個人レベル、組織レベル、地域レベルでの取り組みについて考え、教育の視点、福祉の視点での意見が出されました。異職種の方が集まってのグループワークだからこそ、お互いの視点の違いを感じることができたと思います。後藤先生からのメッセージ～「思いを伝え、思いを知り、お互いの立場で考える」～　後藤先生のたくさんの思いが込められた言葉です。

後藤教諭

就労

事業所の紹介をしました！

今年度1回目の分科会を6月30日に開催しました。今回の分科会は各事業所の紹介ということで事前に分科会に参加されている事業所に事業内容や事業所の特徴、課題、今後の展望などについて記載して頂いた社会資源調査シートをもとに3分間の発表をして頂きました。当日は19の事業所に発表をして頂きました。限られた短い時間での発表ではありましたが、今まで知らなかった情報や各事業所が抱えている問題等の共有ができました。事業所の多くは工賃アップの為の取り組みや利用者の高齢化への対応、職員の専門性の強化を課題に上げられていました。その後の質疑応答では、他の事業所へ「定着支援で大切にされていることは？」「施設外就労での機械は利用者も扱うのか？」等質問があり、同じ地域で働く事業所間での情報交換の場となりました。

地域で働く当事者の声　山下さんのこれまでとこれから…

8月26日に2回目の分科会を開催しました。今回は「就職した当事者の声」というテーマで（株）九州サプライに就職された山下一仁氏、障がい者支援センターミライプラス　岡浩記氏、障がい者就業・生活支援センターデュナミス　井口雄二氏に登壇して頂き、福祉サービスを利用して一般就職に至るまでの支援経過や当時の思いについて対談形式でお話をして頂きました。

講演の中では自分に障害があると知った時の気持ちやミライプラスの訓練で頑張った事、きつかった事等赤裸々に話して頂きました。その後、講演を聴いて参考になった点と山下さんへのメッセージについてグループワークを実施し、「本人のお仕事が定着されているのは家族や職場の方に支えられているからだと思う」「当事者の話を聞く機会は少ないので良い気づきがもてて良かった」「支援機関の連携の大切さを知った」等の意見があがりました。また、九州サプライの担当者の方も高い評価をされており、今後はもっと責任のある仕事にも携わってもらいたいと言われていました。最後に山下さんにとって「働くとは」の問に、親を養っていくこと、親が亡くなった後は自分で生活をしていくためにしなければならないことと言われていました。更なるステップアップを目指して今後もお仕事を頑張って頂きたいと思います。

グループワークの様子

相談

2年目を迎えた相談支援分科会。参加事業所も人数も増え、昨年よりパワーアップしました。より実践に沿った内容の分科会を行い、資質向上、スキルアップ、さらには各相談支援事業所とのしっかりとした連携を図っていきたいと思っています。

6月26日、今年度第1回分科会を開催。相談支援専門員としての視点、取り組む姿勢についての講義と事例検討を行いました。

第2回目を8月20日に開催。当事者の方を招いて実際に面接演習を行いました。『障がい者の想いを聴く』という講義を受けてからの面接演習、面接を通して見えてきた当事者の方の想いを基に『想いのマップ』を作成します。参加者一人一人が持ち時間5分の中で当事者の方の想いを聴き取っていきます。参加者からは「緊張もあったがよい経験になった。」「生の答え、反応により更に奥深いニーズを引き出す勉強ができた」「ご本人のどの言葉にきっかけを見つけていくか難しさを感じた。」「いかに雰囲気を作り、話しを引き出し、想いに対し傾聴、受容することが大切かを再認識できた」「様々な視点から意見を出し合いながら話し合い勉強になった」等々の感想が出ました。

リーベルに集う仲間たち ④

杉森高等学校看護専攻科 2年生が実習に来られました！

7月2日(木)、リーベルに若さ溢れる看護師の卵さんがやってきました。今回は、実際に関わりを持たせていただいている自宅を訪問し、当事者の方の生活に触れ、ご本人や家族からの声を聞いていただきました。福祉サービスの居宅介護(ヘルパーによる身体介護、家事援助)の利用と併せ、医療面から訪問看護、訪問リハビリ、訪問歯科、往診を受けながら在宅生活をされている方です。看護師として今後、在宅訪問をする立場になられる方もいるかもしれません。今回の実習終了後、実習生から感想をいただきましたので抜粋し掲載します。

・実際に利用者さんの自宅を訪問し、直接利用者さんから話を聞かせていただき、住み慣れた環境で家族と同じ時間を共に過ごすという点で、とても良いものだと感じました。

・障害者相談支援センターでは利用者さんに情報提供をするだけでなく、相談や手続きの支援が行われ、課題が解決するまで付き添われたり、利用者さんの将来の生活を一緒に考えたり、本人の想いを大切にされていると感じました。

・在宅で療養するには、たくさんの職種が関わっていると学びました。

・在宅看護は住み慣れた場所での生活、家族との時間を多く過ごせると言う点で、良いものだと感じました。

今回の実習で感じたこと、学んだことを、看護師として活かしていってほしいと思います。

発足!!『ワーカーズ連』

7月24日(金)、第1回八女地区サービス管理(提供)責任者連携協議会ワーカーズ連が開催されました。連携協議会を開催するにあたり、準備委員会を立ち上げ臨んだ第1回目の協議会。35事業所42名の方に参加いただき感謝致します。

『ワーカーズ連』の名前は、阿波踊りにちなんだものです。踊りのチームのことを連（れん）と言いますが、その連が競って祭りを盛り上げます。この連携協議会でも、業種ごとにサービス管理責任者さんが一つの連をつくり、その連が集まって連携協議会を盛り上げていこうという思いでこの名前が決まりました。

今回のテーマは同じ事業種の方々と日頃の業務について語り合い、共感しあい、他施設の取り組みを知る。そして、今後の連携協議会につなげていこうというものです。7グループに分かれ、困っていることを始め、お互いの施設での取り組みについて情報交換、または「そうそう!!」と共感しながら、それぞれのグループとも活発な意見交換がされていました。

今後、取り組みたいことについても各グループで話し合ってもらいました。それぞれの施設を見学したい、職業指導員や生活支援員の研修会の開催、もっとグループワークをして内容を掘り下げていきたい。サビ管の質を高め、八女地区の質を上げたい等々。

この会は数ヵ月に1度の割合で今後も開催していく予定です。運営委員として参加したいとの声を上げていただいた方も・・。ありがとうございます(^^)

今後も各施設のサービス管理(提供)責任者の方々が顔の見える関係性を築き、お互いに切磋琢磨していけるよう、この会を続けていきたいと思います。

編集後記

今回、初めてリーベル通信の編集をさせて頂きました。文字や写真の構成等を考えるのは難しいですね(*'3')これからも皆さんにホットな話題をお届けしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。まだまだ暑くなったり寒くなったりと気温の変化は大きいですが、体調を崩されないようにして下さい。(堤)